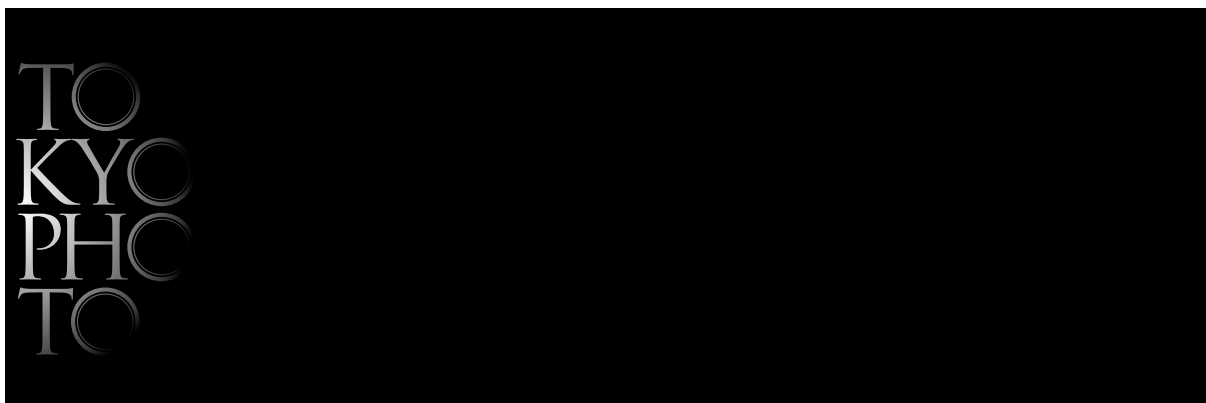


# TOKYO PHOTO 2009 (東京フォト) 大盛況のうちに閉幕

2009年9月4日(金)～6日(日)

ベルサール六本木 1F・BF



## ご報告

2009年9月4日から6日までの3日間、東京都港区のベルサール六本木にて、日本初の国際的な写真のアートフェア『TOKYO PHOTO (東京フォト)』が開催された。

会場は1階と地下の2フロアで展開。1階会場では、サンディエゴ写真美術館収蔵の歴史的な作品50数点を展示した『フォト・アメリカ』、ニューヨーク、LAを代表するフォトギャラリーによる50作品あまりの作品展示のほか、特別参加したブルガリアが、チャリティーの一環として撮影された世界的の著名人達のポートレートを表示してイベントに華を添えた。700㎡の地下会場では、国内アートギャラリーを中心とした約20社が300点余りの写真作品を展示販売した。

アートギャラリーを集め、写真作品のみを販売目的で展示するイベントは、国内では初の試み。会場を訪れた人々は写真作品の圧倒的な迫力に刺激を受け、熱心に作品を見て回るほか、海外や国内のギャラリストに作品や作家についての説明を受けるなど、明るくオープンな熱気による良いエネルギーが会場全体を包んだ。会期中の来場者数は約5500人。最終日の日曜午後は急遽閉館を30分延長し、大盛況のうちに幕を閉じた。

## フォト・アメリカ展



フォト・アメリカ展会場

アメリカの写真の歴史が一望出来る『フォト・アメリカ』展は、デボラ・クロチコ氏がキュレーションとインスタレーションを担当。アンセル・アダムスのヨセミテ、エドワード・シェリフ・カーティスによるアメリカ先住民のポートレートのほか、エドワード・スタイケンやアルフレッド・スティーグリッツ、ラリー・クラークなど、アメリカを代表する写真家の作品54点が出展された。すべてモノクロ写真で構成され、スマートかつ美しい写真の魅力を堪能出来る、見応えのある展覧会となった。

## セミナー



左から2人目：デボラ・クロチコ氏  
右端：笠原美智子氏



壇上左端：後藤繁雄氏  
右から2人目：ジェイムス・ダンジガー氏

週末には1階会場にてセミナーが開催された。土曜日は、東京都写真美術館の笠原美智子氏とサンディエゴ写真美術館のデボラ・クロチコ氏が、日米の写真美術館の相違や、直面する共通する問題点などについて両国の写真専門美術館ならではの立場から意見を述べた。また日曜日のニューヨークのギャラリー・オーナー、ジェイムス・ダンジガー氏と京都造形大学教授でG/Pギャラリーの後藤繁雄氏による対談では、90年代以降の米国における写真市場の形成とその人気の盛り上がり、また写真作品のコレクションの始め方やコレクションのポイントなどを解説。観客からも多くの質問が上がり、予定時間を延長して熱いトークセッションとなった。



「これだけ活気のあるアートフェアは世界でもめずらしい」と、海外から参加したギャラリーのオーナー、ローズ・ギャラリーのローズ・ショジャーナ氏とダンジガー・プロジェクトのジェイムス・ダンジガー氏は口を揃える。また国内外のアートフェアに出展経験のある在京ギャラリーのオーナーたちも、「これまでのアートフェアとは違い、新しいお客様が多く、熱気があった。アートという間口が狭くなりがちだが、写真という分野の吸引力に可能性を感じる。」と嬉しそうに話した。会期中、そしてその後のアフターセールスでも作品の売れ行きは上々との事。国内でも、高まる写真への関心が、市場形成へと繋がる可能性を十分に予感させた。



建築家山口誠氏によるスタイリッシュかつ斬新な演出と会場構成も大好評で、アートの展示会として最高のクオリティのものでありながら、絵画や版画、彫刻など他のメディア作品を一切入れず、写真のみで構成するという独自のメソッドで構成された『TOKYO PHOTO』。アートとしての写真作品という存在の認知を高め、この国のアート、写真の歴史に新たなページを刻む重要な機会となった。

東京フォト委員会

## 参考データ

参加ギャラリー : 24社 (国外4社) + サンディエゴ写真美術館

出展作品 : 400点以上

来場者数 : 約5500名

プレス来場 : 約330名

メディア掲載 : 65媒体

この資料に関するお問合せ先:

東京フォト委員会

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-13-2-1407

e-mail: [info@tokyophoto.org](mailto:info@tokyophoto.org)